# 第４回日ソ知事会議
# お　よ　び
# 視　　察　　報　　告

昭和 46 年 7 月 15 日～27 日

全　　国　　知　　事　　会

写真あり

日　ソ　知　事　会　議

向つて右側席日本側知事，立つて後向き団長岩手県知事

写真あり
ロシア共和国副首相・ジヤコフ，同ゲラシモフ訪問

# 訪　ソ　知　事　団　名　簿

| | | |
|---|---|---|
| 団　長 | 岩手県知事 | 千田　　正 |
| | 秋田県知事 | 小畑　勇二郎（夫人好子） |
| | 鳥取県知事 | 石破　二　朗（夫人和子） |
| | 岡山県知事 | 加藤　武　徳（夫人美智子） |
| | 福井県知事 | 中川　平太夫 |
| | 兵庫県知事 | 坂井　時　忠（夫人和子） |
| | 岐阜県副知事 | 杉村　治津雄 |
| | 全国知事会<br>事務局次長 | 井土　良　二 |

# は　し　が　き

昭和 46 年 7 月 18 日 12 時 50 分、訪ソ知事団の主体は、ソ連邦対外友好文化交流団体連合会の招待により、羽田空港を出発してモスクワに直航し、モスクワ時間で同日の 17 時 20 分にモスクワに到着した。これより先に、敦賀より海路ナホトカに上陸し、シベリアを経由して来た加藤岡山、中川福井の各県知事および杉村岐阜県副知事がモスクワにおいて合流し、日ソ知事会議に臨んだ。会議終了後、モスクワにおいては日ソ貿易、特に沿岸貿易問題を中心話題としてソ連要人を歴訪した。その後 2 班に分れて、1 班はコーカシア地方のグルジア共和国を、他の 1 班はレニングラードを視察した。

会議および視察を通じて、日本知事団はソ連側より非常に温い待遇を受けた。

今回の日本知事代表の訪ソは、貿易問題を中心として、突つこんだ意見交換が行われ、相互理解を深め、今後の貿易の促進の上に極めて有意義であつたと思われる。

従つて、本報告書は、会議および要人との会見に焦点を合せ、できるだけ忠実詳細に報告するようにつとめた。

# 目　　次

第１部　第４回日ソ知事会議……１頁

１．第４回日ソ知事会議次第…… 3

２．出席者一覧…… 4

３．議事概要…… 6

４．ソ連側議題…… 8

５．日本側議題……25

６．協　議……30

７．共同声明……34

第２部　視　察…… 37

１．全国知事会代表団のソビエト滞在日程……39

２．ソ連要人との会見および視察……44

（1）シチコフ、ソ連最高会議連邦会議議長……46

（2）ロシア共和国閣僚会議、ゲラシモフ第１副首相
およびジアコフ副首相……47

（3）ソ連貿易省、セミチヤソノフ第１次官……52

（4）グルジア共和国、キクナゼ副首相……55

# 第１部　第４回日ソ知事会議

# 1. 第 4 回 日 ソ 知 事 会 議 次 第

日　時　　昭和 46 年 7 月 20 日（火）　午前 10 時～午後 2 時

場　所　　モスクワ市カリーニン大通 14　対外友好会館ホール

一　開　会

二　ソビエト側知事代表の挨拶およびソ連知事紹介

三　日本側知事代表挨拶および日本知事紹介

四　来賓挨拶

1. ロシア共和国外務大臣の挨拶

2. 在ソ連日本大使の挨拶

五　議　事

1. ソ日関係の一層の発展と協力について（ソ連側提出）

2. ソビエト極東および東シベリアの開発ならびに対日沿岸貿易の発展について（ソ連側提出）

3. 日ソ貿易全般の促進について（日本側提出）

4. 沿岸貿易の促進について（日本側提出）

5. 公害対策について

六　意見交換

七　会議終了

八　日本側知事代表挨拶

九　ソ連側知事代表挨拶

十　閉　会

## 2. 出　席　者　一　覧

日　本　側

| | | | |
|---|---|---|---|
| （団　長） | 岩手県知事 | 千　田 | 正 |
| | 秋田県知事 | 小　畑 | 勇二郎 |
| | 鳥取県知事 | 石　破 | 二　朗 |
| | 岡山県知事 | 加　藤 | 武　徳 |
| | 福井県知事 | 中　川 | 平太夫 |
| | 兵庫県知事 | 坂　井 | 時　忠 |
| | 岐阜県副知事 | 杉　村 | 治津雄 |
| （随　員） | 全国知事会<br>事務局次長 | 井　土 | 良　二 |

ソ　連　側

（代　表）　ハバロスク州ソビエト議長、ポドガエフ

沿海州ソビエト議長、バラキン

ブリヤート自治共和国閣僚会議議長、ピボワロフ

イルクーツク地方ソビエト議長、クラフチエンコ

チタ地方ソビエト議長、ジミトリエフ

サハリン地方ソビエト議長、シエフツオフ

アムール地方ソビエト議長、グレク

## 来　　賓

日　本　側

在ソ日本大使　　新　関　欽　哉

ソ　連　　側

全ソ対外友好文化交流団体連合会幹部会議長、ポポア

ロシア共和国外務大臣、チトフ

全ソ対外友好文化交流団体連合会幹部会副議長、ゴルシコフ

ロシア共和国国家計画委員会副議長、ラゴシン

モスクワ市ソビエト副議長（副市長)、ブイコフ

ソ連貿易省極東部長、バガノフ

## 3．議　事　概　要

午前 10 時開会

司会をつとめた全ソ対外友好文化交流団体連合会幹部会議長、ポポア女史より次のような挨拶があつた。

親愛なる知事さん、親愛なる皆さん

最近、経済文化その他において、日ソ関係には、顕著な進歩が見られます。特に私達が少なからず努力している沿岸貿易は、日ソの府県と州、日ソの市相互の間において、重要な意義をもつております。私達は、第 24 回共産党大会において、平和のプログラムを採択したが、このプログラムは一貫して一歩一歩平和的な愛好国とともに実現しております。私達は沿岸貿易が両国民の長期に亘る利益であることを認めている。このようにして私達の協力目的の発展を考えるとき、日本の言葉「千里の道も一歩から」というのがありますが、私達もその道を歩いております。しかもこの友好の道は、思つたより短いものと思う。私は日本の知事さんの中に、既に前の日ソ知事会議に参加した知事さんがおられることを嬉しく思います。

次に、ポドガエフ、ハバロフスク州知事がソ連側を代表して挨拶し、ソ連側の知事を紹介した。挨拶の要旨は次のとうり。

**ソ連側代表・ハバロフスク州ソビエト議長挨拶要旨**

私達は日ソ両国間の善隣関係の強化を望んでおります。ソ連国民は確乎とした平和を心から望み、平和友好を心から望み願つております。今回の会議および視察の成果が、両国の相互理解を深め、実り多いものとなることを期待します。

続いて訪ソ日本知事団々長、千田岩手県知事の挨拶があり、日本側知事を紹介した。挨拶の要旨は次のとうり。

**日本側代表・千田岩手県知事挨拶要旨**

このたび私たち訪ソ日本知事団は、ソ連対外友好団体のご招待により貴国を訪問いたしましたが、貴国関係各位の盛な歓迎と行き届いた接待を受け、また本日はこのような立派な知事会議を準備されたことに対し、感謝いたしております。私自身、光栄にも第一回日ソ知事会議の議長をつとめさせていただいてから、すでに三回の会合があり、この相互理解のよき場である会議から生れた成果は、

○日本地方貿易協同組合の日ソ貿易への進出。

○ハバロフスク日本商品見本市開催の成功。

○新潟ーハバロフスク間の定期航路の運航開始。

○ソ連邦各州の議長の皆さんの日本万国博覧会への招待の実現。

となつて実りました。

本日はこの会議におきまして、共通の問題についてソ連政府の諸施策および州、地方等の執行委員会が行つていることを聞くとともに、また私たちの方から若干の希望や意見を述べ、友好裡に懇談が重ねられることは、まことに幸甚であります。このような形式の会議はわれわれにとつては勿論、日ソ両国住民のためにも大きな利益をもたらすものと存ずるのみならず、両国の間に一層の理解が深められ、友好親善の基礎を築くものであると確信いたします。

次いで、来賓として出席したロシア共和国チトフ外務大臣および新関駐ソ日本大使からそれぞれ要旨次のような挨拶があり、議題に入つた。

**ロシア共和国チトフ外務大臣の挨拶**

尊敬する知事、大使、紳士淑女、同志の皆さん

私は、本日このソ連友好会館に、極東、東シベリアの州、地方の議長が、日本の知事さんをお迎えできたことを喜んでおります。私は、この会議がシベリア極東の州、地方と日本の県との友好関係に寄与し、善隣関係の強

化に影響し、相互の経済文化の交流を促進するものであると確信している。

**新関在ソ日本大使の挨拶**

日ソ貿易は、著しい増加を示し、昨年度は八億ドル乃至九億ドルに達しようとしている。沿岸貿易は、両国にとつて重要な意味をもつており、日本海沿岸住民にとつてはまことに意義深いものがある。海は両国民を隔てるものではなく、結びつけるものである。今回の日ソ知事会議において貿易について実務的に話し合いをすることは、まことに意義深いものがある。その成果に期待する。

**議題１　ソ日関係の一層の発展と協力について**

この議題は、ソ連側から提出されたもの。ポドガエフ、ハバロフスク州ソビエト議長から大要次のような報告提案があつた。

尊敬する知事閣下！

尊敬する大使閣下！

親愛な来賓の皆さん！　同志の皆さん！

極東及び東シベリア地方並びに州ソビエト勤労者代議員執行委員会議長と日本県知事との本会議で私に発言の場を与えてくださつたことに対し、まず最初に感謝の意を表します。

私たちの間には、共通の関心事があります。その問題を討議によつて、両国及び両国民の善隣、協力関係の一層の発展強化を目的とした双方が受け入れられる解決の道をみつけだすことができるでしよう。

すでに外務大臣が述べておられるように、ただたんなる隣人では足りないのであり、それはよき隣人とならなければならないのです。

ソビエトの国民はすべての人民と平和と友好のもとに生活することを志向しています。ソビエトの外交政策は、世界の平和と諸人民安全の保障を方針としており、それは、あらゆる社会進歩のかくことのできない

条件です。わが国のこの外交方針は、ソビエトの外交政策の重要な目的の一つで、今日の国際的発展の現実的な力となつた社会制度の異る国々との平和共存の原則を一貫して実現していることであると指摘したソ連共産党第24回大会で再び確認されました。この原則は、ソ日両国の関係においてもそこに基礎をおいています。

今年の10月で日ソ国交回復共同宣言に調印してから15年にならんとしています。

この年月の間に、ソ連と日本との貿易、経済、科学技術、文化関係の拡大のため、またソ日両国の善隣関係の発展のために多くのことがなされたということに満足の意を表したいと思います。

両国の間で宣言調印後には、貿易協定、議定書、漁業協定、ソビエトと日本の港への直接海運海路の確立に関する協定、領事館の開設、モスクワ＝東京、ハバロフスク＝新潟間の直行空路開設に関する協定、ツーリスト協定などが結ばれました。

これらすべてのことは、両国民の利益となるソ日関係の発展強化のうえで大きな貢献をもたらしました。

ソ日関係の発展のうえで肯定的な影響を与えたのは、ここ数年間、とみにその拡大と深まりがみられるところのソビエトと日本の国家活動家との間の接触です。たとえば、川島自民党副総裁、外務大臣の椎名、三木、愛知の諸氏、農林大臣赤城氏、運輸大臣中曾根氏その他の方々が訪ソされ、ソビエトの指導者と会見し、懇談したことなどがあげられます。

ここ数年間に、ソビエトからは、ナスレジノワ、ソ連最高会議民族会議議長、バイバコフ、ノビコフ、ソ連邦閣僚会議副議長、グロムイコ外務大臣、イシコフ、パトリチエフ、フルツエワ、チモフエエフ、ブレホフ、その他の各大臣が日本を訪れています。

我々両国間の貿易経済状態についてここで私が詳細にわたつて述べる必要はないと思います。というのはこのテーマで別の報告が本会議でな

されることになつているからです。しかし、この分野での大きな前進がみられ、その発展は日本の県知事とソビエトの地方及び州の議長の努力にもかかつているということを強調しておきたいと思います。

我々両国は文化関係の分野でも成功裡に協力がなされています。ソビエトの芸術愛好家たちは、ここ数年間に人形劇「太郎座」「桐朋学園オーケストラ」、東京バレー、沖縄の歌と舞踊団、日本歌劇団といつたような日本の劇団を一度ならず観賞しました。バイオリニストの潮田さんとギターの岩崎さんの公演も好評でしたし、そしてつい数日前モスクワの社会活動家たちとこの友好会館で会合し、なかなかの人気をはくしている現在ソ連で公演中の「松竹歌劇団」などをあげることができます。

ソビエトの観客は日本とその国民の生活の一部をみたとも云えるでしよう。

ソビエトでは日本の映画祭が毎年成功裡に行なわれています。

ソビエトの多くの音楽団、演奏者の名も日本でよく知られています。日本で再度公演したソ連のボリショイ劇場、ボリショイ・サーカス、ノボシビルスクのオペラ・バレー劇場をあげるだけで十分でしよう。昨年の万博「エキスポ 70」に関連して、ソ連のボリショイ劇場、レニングラード、シンフオニー、オーケストラ、ロシア民謡現代合唱団、エストラード、グループ、ソビエトの有名なソリストが日本で公演しました。今年になつてすでにレニングラードのキーロフ劇場のバレー団が日本での公演をすませ、また、ボリショイ劇場、全ソ・ラジオテレビ専属シンフオーニー・オーケストラ及び一連のソリストの公演が予定されています。ソビエトの芸能人は日本でいつも心からの暖かい歓迎を受けています。

造形美術の分野でも文化的な交流が活気づいています。1970 年に日本で、わが国から初めて外国に持出された沢山の絵画を含む「ソ連美術館傑作百集展」が大きな成功を収め、エキスポ 70 の世界造形美術館

にソ連美術館からの一連の絵が展示されました。ソビエトではここ数年間に、鉄斎、北斎の日本画展を含む数多くの日本の絵画、彫刻、造形美術展が開かれました。そして今年は、ソ日協会主催でソビエトで北岡文雄氏の彫刻展と子供の本のエラストレシヨン家の展示会が予定されています。

1970年に日本では、一連のソビエトの新しい映画が成功裡に上演され、第7回ソビエト映画祭が催されました。その他、戦艦ポチヨムキンから始まつた現在の映画までのソビエト映画史の発展を紹介した「ソビエト映画フエステバル」がエクスポ70で行なわれました。

ソ日関係の一層の発展、両国の国民の生活をお互いに紹介しあううえで大きな役割を果したのは、ソ連邦の万国博覧会エクスポ70への参加は言うまでもありません。大阪での万博ソ連館が2800万人の参観者があつたという数字そのものが証明しているように、わが国の館がもつともポピユラーな館の一つであつたことを私達はとくに嬉しく思つています。

日本のもつとも広範な住民層の代表がソビエト館を参観したことは、自分達の隣人であり、友好的なソビエト国民の生活に深い関心をもつている表われではないでしようか。ソ連館の感想録の本には、わが国に対する、またソビエト国民に対する友愛の気持を表わした書きおきが沢山見られます。

他方では、日本の商社及び諸団体はソ連で催される国際見本市に積極的に参加しており、そしてまた、独自の見本市をも開催しています。今年だけをとつてみましても、ソビエトの各都市で行なわれる14の国際見本市に参加し5つの日本の見本市が開催されることになつています。1970年の夏、私が代表している私達の地方の首都、ハバロフスク市において、尊敬する来賓の皆さんの県の県産品の見本が展示された日ソ沿岸貿易の大きな見本市が開催されました。

両国の文学関係の分野では昔から実り多いものでした。700万部を越える発行部数で日本の書籍が翻訳されソビエトで出版されたということだけでも十分でしよう。今年の初めに、二巻ものの芥川龍之介の作品集、ソビエトの翻訳者の手になる「万葉集」がソ連で出版されました。ソビエトの愛読者のなかで日本文学は好評をはくしています。芭蕉、芥川、石川啄木、安部公房の名はソビエトで広く知られています。

このようにソ日文化協力は成功裡に発展していることは一目瞭然です。このことは、両国民の友好と相互理解の気持を深めるうえでよい影響を与えていることは言うまでもありません。

私達の国の善隣関係の発展のうえで両国の世論が大きな貢献をしています。ソビエト国家の創始者、偉大な思想家、国家活動家であるウエ・イ・レーニン生誕百周年を1970年に祝うにあたつて日本の世論が尊敬と大きな関心をしめしたことは私達にとつて特に喜ばしいことであります。私達の手元にあります資料によりますと、ウエ・イ・レーニンを記念した諸行事は日本のすべての県とほとんど大部分の大都市で行なわれています。この事業を促進させ、また参加した諸団体及び日本の県知事を始めとする皆さま方に私達は心からの感謝の意を表明する次第であります。

ソビエトと日本の労働組合の交流が年をおつて拡大され、1966年に創設されたソ日労粗委員会も積極的に活動をしており、毎年定期的にソ日労組集会がもたれております。また、数多くの婦人及び青年の代表団の交流が行なわれております。

ここ、対外友好会館のホールで、ソ日親善運動のいちぢるしい拡大についていえることは私にとつてとくに嬉しいことであります。

1958年から、わが国においては、創立当初からかわることのない、私達の尊敬するネステロフ氏を長とするソ日協会が積極的に活動しています。当協会会員数はほぼ50万にのぼり、その支部をレニングラード、

キエフ、タシケント、トビリシ、ボルゴグラード、スンガイト、オデツサ、ソチ、ハバロフスク、イルクーツク、ユジノ＝サハリンスク、ナホトカの各都市においています。

全ソ対外友好文化交流協会連合会のもとにソ日協会は、ソビエト国民の生活を日本の国民に紹介するはば広い活動を行ない、日本の対ソ友好団体と毎年、文化協力協定に調印し、そのプログラムを遂行しています。

全国知事会とまだ直接の接触のなかつたときすでに、多くの日本の県知事の皆さんがソ日協会の紹介で訪ソされていることを指摘するのは時宜に適していると思います。それは千田岩手県知事、新潟、石川、山形、長野、広島、山梨、島根、福岡の各県の知事の方々であります。一連の県知事は非常な積極性をもつて私達の行事に参加しており、自分の県の対ソ友好協会支部を援助しています。知事自らの参加によつて日本のこれらの組織団体はけんいの高揚と拡大を大きく促しています。

私達両国の世論の友好関係発展のプロセスで新しいまた有望な方式が生まれてきました。それはソビエトの都市及地方と日本の都市と県との間に姉妹関係を結ぶということです。両国民のこの協力方式が経済的及び文化的にいかに大きな意義をもつているかについては多くを語る必要はないと思います。まず最初に姉妹都市となつたのは、舞鶴とナホトカ、つづいて新潟とハバロフスク、金沢とイルクーツク、小樽とナホトカ、横浜とオデツサ、広島とボルゴグラード、七尾とブラツクですが、現在、モスクワと東京、レニングラードと大阪、キエフと京都、サハリン地方と北海道などが常時友好関係をたもつており、ハバロフスク州と兵庫県ウラノデと留萌市の接触が強化されています。

姉妹都市を結んだ両都市の関係は、年とともに拡大され、それはますます広範な多面的なものになつており、代表団の交換、科学及び文化活動家との会合、展示会及び自立舞踊団の交換、相互で親善週間を行なう

といつたことが実現されています。

この活動には姉妹関係を結んだすべての県知事と市長が積極的に参加しています。

すでに前に述べたハバロフスク沿岸貿易見本市開催中に、初めて日本の市長とシベリア及び極東の市ソビエト議長との会合をもちました。この会合は相互利益に合致し、今後定期的にこの様な会合をもつという決定をみました。そして、今年10月に、新潟市において、シベリア及び極東の市ソビエト議長と日本の市長第2回会議の開催を予定しています。

ソビエトと日本両国の広範な国民層と社会団体の間に色々な交流が年とともに拡大し発展しております。日本海は本当に地理的な意味でのへだたりがあるのみで、現在はソ連と日本の友好を強化し、両国民を接近させるものとなつています。この発展しつつある関係を組織的に強化する必要性は現実が物語つています。友好関係を支持している都市及び地方、県のソ日両国の世論の代表者会議を近い将来組織する合目的性について検討する時機に来ているのではないでしようか。

日本の諸県及び諸都市とシベリア及び極東の地方、都市の交流を通じての1971年度の文化協力発展に関して、私達の側には次のような提案をもつています。

ハバロフスク州ソビエトは兵庫県下の市会議員代表団を5名招待し、兵庫県へ2名の代表と商業関係代表団を3名新潟県に派遣すること。

沿海州ソビエトは、舞鶴市の生徒グループ10名をナホトカ市に、小樽市会議員代表団3名と同市港湾関係代表団3名を招待し、ナホトカ市から2名の代表を舞鶴と小樽市に派遣すること。

イルクーツク地方ソビエトは、石川県会議員代表団3名を招待し、2名の代表を石川県に派遣し、イルクーツク市ソビエトは、盛岡市会議員代表団3名を招待すること。

サハリン地方ソビエトは、旭川市教育委員会代表団3名を招待し、

ホルムスク市ソビエト代議員代表団２名を紋別市に派遣すること。

ブラーツク市ソビエトは、七尾市会議員代表団３名を招待すること、以上であります。

私達は資料交換の次の分野の正常化の問題について討議したいと思つています。

都市計画、緑化、都市の産業企業による汚染からの大気の清浄、交通騒音防止、交通安全のための組織、都市のゴミの再加工と利用、給水組織の問題について、

就学前及び学児童の教育組織、学児童の体育、教育過程での技術手段の使用、子供の夏休み中の組織、学童を技術、芸術サークルに入るようにしむけることなどについて、

民族工芸展、絵画愛好家展、子供の画技術創造及び発明生徒展の問題について

ソ日両国民の生活、民族芸術、シベリアと日本の自然、ソビエトと日本の文化、経済発展についての記録及び長編映画について以上です。

さらに次のような問題を検討してもよいのではないでしようか。

スポーツマン、自立舞踊団、都市建設者及び組織専門家グループの交流の将来の拡大について

いろいろな分野の専門家のソ日合同シンポジユームをシベリアと極東及び日本で交互開催する可能性について、以上です。

ソビエトの州、地方と日本の県との間の文化的、友好的協力計画の実現のために、私たちは、あらゆる努力をする用意があります。

私の報告の中の提案について、もし日本の皆さんが、両国民の友好と協力の一層の発展を促すだろうところの皆さんの提案を聞かせていただければ、私達は感謝にたえません。

ごせいちようありがとうございました。

**議題2　ソビエト極東および東シベリアの開発ならびに対日沿岸貿易の発展について**

ソ連側より提出された議題。バラキン、沿海州ソビエト議長から大要次のような報告提案があつた。

尊敬する知事閣下！

尊敬する大使閣下！

親愛な来賓の皆さん！

同志のみなさん！

東シベリア及び極東の地方並びに州ソビエト勤労者代議員議長を代表して、わが国を親善訪問している全国知事会日本代表の皆さんを歓迎します。

1970年の6月に我々がお国を訪問したときの最もよい印象、我々を引見してくださつた国家の活動及び日本の業界の方々の大変な歓迎などが我々の胸に残つていることをお伝えしたいと思います。

本会議の討論が、東シベリア及び極東の地方、州並びに自治共和国と日本の県との間の貿易経済、文化、交流発展における一層の貢献、また全国知事会との接触の拡大とその深まりの促進となることを期待しています。

我々は全国知事会日本代表団を喜んでわが国に迎えておりますし、また、皆さんのソビエト滞在そして各界との懇談がわが国の経済文化生活をよりよく知るため、さらに皆さんの訪ソが有意義であり、ソビエトと日本両国の相互理解及び善隣関係の促進となるようにあらゆる努力をいたします。

ソビエトの国民は、平和な創造的労働にいそしみ、共産主義社会の物質的技術的基地を建設しています。

ソビエト権力の時代に、東シベリアと極東においては社会的、経済的な大改革がなされ、鉄及び非鉄金属冶金、石油及び鉱山工業、機械製作

及び建設工業、食品、漁業、経工業を含む多面的な国民経済が創設されました。全ソ科学アカデミー・シベリア分院及び極東科学センターが創設され、成功裡にその活動をしています。

第８次５カ年計画期間の極東及び東シベリアの経済は、急速なテンポで発展をとげました。一般消費物資を住民に保障するための重要な意義をもつ軽工業が大きく発展をみました。食料及び漁業の製品がいちぢるしく増加しました。

最近の５カ年間に、世界最大の600万K/Wの発電力をもつクラスノヤルスク水力発電所、発電力410K/Wのブラック水力発電所、クラスノヤルスク及びブラックのアルミ工場が操業を開始しました。ノリリスク鉱山冶金コンビナートとコルシノフスキー鉄鉱コンビナートの操業能力が増大されました。ブラツク、クラスノヤルスク、アムールのセルローズ、厚紙及び紙の企業の生産施設が増強され、それらが、操業しています。製材、材木加工、松脂エキス及びセルローズ、厚紙の大きな工場が新しく建設中です。石油せい製工場の建設がくりひろげられ、化学工業の企業には新しい設備が導入されました。ジムスキーでは電気化学コンビナートの建設に着手しました。この地方の鉄道、自動車網が拡張されました。極東の港の受入能力も増大しました。

1966年から1970年までに、東シベリアと極東では、総面積3,000万平方メートルにおよぶ住宅が建てられ、また収容能力のあるたくさんの学校、就学前施設、病院、サナトリウム及び休息家が建設され、活動を始めました。これらすべてのことは、住民の生活向上のため肯定的な影響をおよぼしています。

農業には新しい広大な肥沃の地が加えられました。穀物及び他の農産物の生産がいちぢるしく増大しました。

極東と東シベリアには生産力発展のための遠大な将来性があり、そして、それは天然資源の巨大な規模、わが国の国民経済のうえでのこの地

方の経済的意義とが結びついています。

極東と東シベリアにはコークス及び褐炭の大埋蔵地があり、天然ガスの多量の資源をもつています。

東シベリアと極東の水力発電のポテンションは非常に大きなものです。水力資源の最も豊富なのはアンガラ＝エニセイ地方で、そこでの年間生産量は 1,400 億 K/W 時まで生産することができます。ここにはすでにブラツクとクラスノヤルスク水力発電所が建設を終了し、サヤンとウスチ＝イリムスクで建設中です。

東部地方には、たくさんの鉄鉱石が埋蔵され、非鉄金属、金、ダイヤモンドが産出されています。

ここには、わが国の森林資源の 3 分の 2 以上が集中しており、そのうちの大部分は鉄道の沿線あるいは大河の河岸にあります。ですから、その伐採及びわが国の他の地方への輸送、外国への輸出を容易にしています。

極東ぞいの大平洋水域には、海産物を含む沢山の生産資源があります。

今年の初めに、我々の政府は科学的に論拠づけられたソビエトの国民経済の一層の発展計画を作成しました。1971 年～75 年期の第 9 次 5 カ年計画の主な課題は、社会主義的な生産の高いテンポの発展とその効率の高揚、科学技術進歩と労働生産性の急速な向上を基盤とした全国民の物質的、文化的生活水準のいちぢるしい向上を保障するものです。

この期間中に、わが国の国民所得は、ほぼ 40％増大し、工業製品の生産は 42％から 46％増加します。農業、軽工業、食品工業、一層の急速的な発展のための生産手段の生産がいちぢるしく拡張されます。技術進歩と生産効果が基礎となる電気エネルギー、機械製作、化学、石油化学及びガス産業と冶金工業といつたすべての国民経済分野が早いテンポで発展していきます。5 カ年計画の終りまでに電力生産量は 1 兆 700 億 K/W 時までに達します。発電所の新施設の増加率は 6,700 万 K/W

に達します。

金属切削機械の生産は、1975年に25万台までに、N. C. 工作機械の生産は、すくなくとも3.5倍以上に、計器は2倍、電子計算機は2.6倍増加します。

石油の年間採取量は、5億トンまでに、ガスは3,200億立方メートルまでに、石炭は6億9,500万トンまでに、製鋼は、1億5,000万トンまでになります。

わが国の工業のすべての分野の発展が、第9次5カ年計画においてソビエトの国民の生活的要求をより完全に供給する保障に向けられていることを特に強調する必要があります。このために、広範に要求されている製品の生産及びその生産のための原料、機械、設備をとりあつかつている部分の急速な向上とその比重の高揚が見込まれています。軽工業と食品工業は、新5カ年計画中に、繊維、衣服、靴、肉、乳製品、サトウ、魚製品及その他多くの製品の著しい増産に迫られています。一般消費物資供給で重工業の役割は高まつています。このすべての分野で1970年にくらべて1975年には必要製品の生産はほぼ2倍となり、機械製作では、2、3倍以上となります。

1971年から1975年までの5年間に国民1人あたりの実質収入は約30%高まり、社会消費フォンドからの国民への無償の物質的福利および金銭支払額は40%高まります。小売販売総高は1.4に増大します。総面積5億7,500万平方メートルの住宅が建設されます。住宅地点の設備、公共設備の改善、保健、国民教育、文化、スポーツの発展の面で重要な対策が見込まれています。

これが、ソビエト国民がその実現に熱心に着手したわが国民の経済的、福祉的、文化的一層の高揚の大きなプログラムの概要です。

わが政府は、わが国の東部地方の発展問題についてたえず大きな注意を払つています。

今年の6月11日、モスクワのバウマンスキー地区選挙区での演説でわが共産党書記長ブレジネス同志は、この地方の経済発展問題は全国家的意義をもつていることを考慮してシベリア及び極東の天然資源のより急速な開発と経済的ポテンションをのばす問題について強調しました。

第9次5カ年計画には東シベリア及び極東の国民経済の一層の発展に次のことが見込まれています。すなわち

—アチンスク石油製油工場の加速的建設実現、クラスノヤルスク・アルミ工場の建設終了、ノリリスク鉱山冶金コンビナートでの銅及びニッケル並びに他の一連の工業企業での生産の著しい増産。

ブラック地域生産集合体の一層の発展の保障、ブラック・アルミ工場及びブラック・林業コンビナートの建設の完了。チタ地方のジエレケンスキー・モリブデン鉱山選鉱コンビナートの建設の実現。

シベリア地方の木材の集積及び総合加工の増加、この地方における、木材製材加工セルローズ紙及び微生物大企業の新建設の展開。

極東における石炭、スズ、ウオルフラム（タングステン原鉱）鉱、水銀、金、ダイヤモンドの採掘の増大。コムソモリスク石油加工工場の拡張の終了と新しい石油加工工場の建設開始。製材、セルローズ、原紙、家具、食品及び魚製品の生産の一層の増産。魚業物質的技術基地の強化、船舶修理工場の能力増大、港湾施設の再建設と拡張。ウランゲルとナホトカ港ではすでに港の大建設が進行中です。

大豆と米の増産。4万8000ヘクターの灌漑地の使用水分の多い土地38万ヘクターの干拓、35万2,000ヘクターの土地に必要な仕事をする。

極東及び東ジベリアの北部地域での狩猟、魚撈及び野獣猟、毛皮獣養殖業の一層の発展とシカ飼育の生産向上の保障などであります。

極東及び東シベリアの工業新建設の重要な特徴は、個々の企業建設から地域産業総合体創設への移行であります。このような総合体のも

つとも大きいのは、サヤン水力発電所を基盤としたサヤン地区がそうなるでありましよう。新5カ年計画中に、電力消費を伴う非鉄金属、セルローズ紙及び木材加工工業、現在すでに稼動しているブラツク水力発電所建設中のウスチ＝イリインスク水力発電所を含んだブラツク＝ウスチ＝イリインスク地域産業総合体が発展をみることでしよう。ゼヤ川に強力な発電所が稼動したあかつきには、それを基盤とした新しい産業総合体が創設されることでしよう。

ソビエトの経済、計画の完成化にともなつて、わが国の東部地方に多くの地域的な総合発展計画立案のための前提条件が生まれています。

極東及び東シベリアの加速的生産力の発展は、電力消費を伴う非鉄金属、化学、木材、木材加工及びセルローズ紙工業の製品と魚製品の巨大な生産地としてのわが国での役割が著しく強化されます。

新しい工業企業の建設を遂行していくとともに、極東及び東シベリアでは、この地方に住む住民の物質的福祉の一層の高揚のための基盤となる農業及び社会的文化的建設の急速な発展テンポも見込れています。

極東及び東シベリアの急速な経済の発展が隣国との沿岸貿易を含めた相互利益に基づいた貿易経済関係発展のための好ましい可能性をつくり出しました。

東シベリアと極東に高度に発達した加工工業があるため、この地域の州及地方にその製品を保障し、さらに現在すでに世界の50カ国にその製品を輸出する可能性をもつています。

1971年から1975年までのソ連国民経済発展5カ年計画は、わが国との協力関係を発展させる用意のあることをしめした工業的に発達した資本主義諸国との貿易及び科学経済関係の一層の拡大を見込んでいます。

1971年から1975年の期間にソビエトの対外貿易高は33%から35%増大します。ソビエトは、外交政策及経済においてもまた文化

及び科学技術分野においても、日本との友好的、善隣関係の不断の強化のため努力して来ましたし、今も努力しています。

ここ10年間にソ日貿易高は数倍に増え、そして1970年にはそれは7億2,000万ドルに達しました。日本は資本主義諸国の間での主要なソ連の貿易相手国となりました。

ソ連邦は日本に石油及び石油製品、一般用材、石炭、マンガン及びクローム鉱、アスベスト、鋳鉄、アルミ、機械及び設備その他の製品を輸出し、同時にソ連は日本から、機械及設備、鋼鉄パイプ、ブリキ、化学製品、ニット及びホウ製品、一般消費物資その他の製品を輸入しています。

ソ日貿易関係において新しい、補助的な方式―沿岸貿易、つまりソ連邦の極東及び東シベリアと日本の県との直接のバータ貿易方式が―1963年から発展しています。

東シベリア及び極東の経済機関は、1965年にその目的のため特別にナホトカ市に創設された「ダリイントルグ」を通じて日本市場に進出しています。1970年の貿易高は2,000万ドリを上廻りました。1971年の沿岸貿易高は、2,200万から300万ドルになります。今年の7月1日現在では、ほとんどの契約はすでに調印ずみで、両国からの納入がどんどん行なわれています。こういつたわけで、今年の沿岸貿易高は1970年の水準をはるかに上廻ります。

沿岸貿易の輸出を担当している我々の経済機関は、日本からの国民消費物資ならびに、新製品生産組織のために必要な、また日本市場が必要とし、例年買付けられている輸出製品の生産拡大のための機械、設備及び資源の買付けを希望しています。今年から、我々は契約書に機械、設備、資源を見込めることを考慮しています。

我々のこの希望は、沿岸貿易の一層の発展を促すものであるので、我々の貿易相手側から支持され、それ相当のことがなされることと我々は

期待しています。

「ダリイントルグ」は、現在70の商社及び岩手、秋田、富山、山形、愛媛、石川、福井、島根、山梨、新潟、その他の諸県の協同組合と実務関係をもつています。

沿岸貿易の枠内で、ハバロフスク—新潟、ナホトカ——舞鶴と小樽、イルクーツク——金沢といつた姉妹都市間の貿易関係が成功裡に発展しています。

ソビエト側も日本側も沿岸貿易の一層の発展に関心をもつているよう我々は思います。

今年の4月、東京で開かれたソ日貿易代表団会議で沿岸貿易を含む、両国間の貿易経済関係の一層の発展のための共同決議を採択したことでも、これを証明しています。

1975年に沿岸貿易の貿易高は、1970年に比べて1.5倍になる見通しをもつています。輸出の増進は、魚及海産物、一般用材、医薬品原料、果樹類かんづめその他の製品によつてカバーされます。

それと同時に、次のような輸出品目の拡大によつて実現されます。すなわち、チップ、大理石及びその他の資料の化粧板、製材、エナメル、フエライト、ガンエン及びその他一連の製品です。両国の積極的な努力があれば前述の貿易高は実現可能であります。

ソビエト側としては、コンブ、メンタイ、冷蔵イカ、オヒヨウ、その他一連の製品などを、もつと多く日本の県に輸出できますが、この問題に関しては、我々は若干の困難とせいげんにぶつかつています。そしてその排除はソビエト側だけではないようです。

1969年と1970年間に我々の貿易相手は「ダリイントルグ」のオフアーした、アルナイト、大理石の細片、満州アラリの根、シカの角原料、リモンニクの種、松の実、クルミ、背板、紛細雲母、ダンブリトとダトリト精選鉱、骨と角からの芸術品、民族的おみやげ品、木材製品

からの他使用目的その他のものをことわりました。

ある種の品目に対する日本の輸入制限があるため沿岸貿易の一層の発展を困難にしています。これに関連して、ダリイントルグと日本の協同組合組織との間で相互の製品納入のための長期協定を結ぶ可能性について話合つてもよいのではないでしようか。

このような長期協定は、対日本輸出製品の増大とその生産の拡張のための促進となるでしよう。

さらに、この長期協定に基づいて、技術的条件とその製法の特殊性を考慮した日本市場が需要を求めている製品の生産を沿岸貿易の輸出のために特別に組織してもよいと思つています。

このような長期協定を基盤とした両国の隣り合せた地方の貿易経済関係の発展は、我々の見解では、沿岸貿易発展とその他の分野の種々の関係の非常に大きな貢献となるでしようし、また、この地方の相互理解と親善関係の強化の促進ともなるでしよう。

沿岸貿易の一層の発展の比較的確固とした性格と傾向を考慮に入れて、日本の西部地域の県の一つの都市にダリイントルグの常設駐在員をおく可能性について、もう一度皆さんと意見の交換をしたいと思つています。

このような駐在員がおれば、沿岸貿易に関連した多くの具体的問題が、現地で、しかも相当早く解決されることになるでしよう。

沿岸貿易の情況を検討したソビエト側は、その一層の発展の大きな将来の信頼性をみており、この分野での一層の協力発展を促すためにすべての必要なことを行なつていきます。

もう一度日本からの尊敬する来賓の皆さま方を歓迎し、今日のこの会議の意見の交換が沿岸貿易の増大における可能性をより正確にみつけだす助けとなり、すでに挙げた困難の急速な排除を促がし、さらに東シベリア及び極東の自治共和国、地方、州と日本の県との間の貿易、経済関係の一層の発展のための刺激の実現となることを期待してやみません。

このような気高い志向であるこれらの諸関係の発展における我々の共同の貢献が、ソビエトと日本両国間の善隣関係の強化を積極的に促がし、平和と我々が皆さんと住んでいるこの地方の安静の保障となるでしよう。

このような高い使命をおびた日本の皆さまの成功の期待と希望を表明し、私の報告を終りたいと思います。

ごせいちようありがとうございました。

**議題3　日ソ貿易全般の促進について**

日本側から提出された議題。先づ加藤岡山県知事より大要次のような報告提案があつた。

私は岡山県知事加藤武徳であります。今回ソ連対外友好文化連絡団体連合会のお招きにより、ソ連邦を訪問する機会を得、ここモスクワで第4回日ソ知事会議が開催されるに際し、皆様に親しくお目にかかり、意見を交換する機会を得ましたことは、私の大いなる喜びでございます。

私は、ソ連邦を訪問したのは今回がはじめてでありまして、ソ連船に乗船して日本を出発し、ナホトカ港に上陸して、極東シベリアおよび東シベリアを視察して、この地モスクワにまいりましたが、私は、生まれてはじめて雄大で、しかも行けども行けども果てしなく続く広大な土地、そして、地下には無尽蔵の資源が包蔵されているといわれ、その上をおおう、うつそうたる森林資源を驚異のまなこをもつて眺めましたし、またその美しさにもみせられました。そして「ここがソビエトか」という実感をかみしめたのであります。

日本の歌の一節に「西は夕焼け　東は夜明け」というのがありますが、まさに、これはソビエト連邦のことではないかとさえ思うのでありまして、つまりカムチヤツカでは朝食の準備にとりかかる朝6時でありますのに、レニングラードは夜の9時だとうかがつたのであります。

このような広大な国土と、無尽蔵の資源、そしてすぐれた指導者をも

つ貴国は、革命後 50 余年にして、今日の躍進を遂げられたのでありまして、このことは私どもの非常な驚きであるとともに、心から敬意を表するものであります。

貴国にひき比べて日本は、国土が極めて狭く、しかも資源に乏しいうえに、1 億を超える人口をかかえているのでありまして、多くの原材料や燃料を海外から輸入し、そして輸出を盛んにしていくほかに途はないのであります。

幸いにして、日本経済は、世界各国からの驚異の眼をもつてみられるほどの成長を遂げてまいりました。ちなみに、最近の日本の国民総生産は、米国およびソ連邦に次ぐ、世界第 3 位となり、貿易額は輸出入合わせて 343 億ルーブルに達し、世界第 4 位へとすばらしい発展を遂げております。(輸出 173 億ルーブル、輸入 170 億ルーブル)

このような状況のもとで、ソ連邦と日本との貿易は着実な進展を遂げていることは、まことに喜ばしいことであります。

そこで、現在行なわれている日・ソ間の貿易は、概ね次の 4 つの形態で実施されております。

その第 1 は、日ソ貿易の主体をなす、いわゆる通常貿易でありまして、両国政府間で貿易協定を結んでいるものでありますが、1957 年に協定が結ばれて以降急テンポで拡大され、1970 年の貿易実績は、わが国がソ連邦に輸出したものが 3 億 700 万ルーブルに達し、わが国のソ連からの輸入は 4 億 3,300 ルーブルになつております。この往復 7 億 4,000 万ルーブルのソ日両国間の貿易額は、貴国の対資本主義国貿易の第 1 位を占めるにいたつているのであります。

現在 1971 年から 1975 年にいたる 5 カ年間の貿易支払協定の調印が取り進められており、さる 4 月 28 日に仮調印が行なわれ、近く正式調印の運びとなることと思いますが、昨年までの 5 カ年と比較いたしますと、今年から 1975 年までの 5 カ年間の貿易額は、前期の 170

%程度になると聞いているのでありまして、その拡大に大きな期待がもたれるのであります。

その第2は協同組合貿易でありまして、ソ連協同組合機関と日本の協同組合および商社間の消費物資取引、同時成約によるバーター契約であります。

その第3は沿岸貿易でありまして、ソ連邦極東地域と日本全域との隣接地域の間における消費物資を主とする交易であります。

これらの協同組合貿易や沿岸貿易は逐年拡大されており、今後、更に進める必要のあることはもとよりであります。

最後に第4の方法は、ソ連邦極東地区の資源開発との関連における基本契約に基づく輸出入取引の方法であります。この第4の方法による基本契約の一つは、既に1968年7月に締結され、「ソ連極東森林資源開発プロジエクトの基本契約」として往復総額約3億ルーブルで、わが国から約1億5,000万ルーブルの開発機械設備を輸出し、わが国はこの見返りとして貴国から同額相当の木材や製材を輸入することになつており、このシステムによつて輸入された貴国のすぐれた木材は、わが国の住宅建設、その他に有効に使用されているのであります。

この開発プロジエクトの基本契約による二つ目の成功はウランゲル港の建設であります。1970年4月設計契約が調印され、昨年12月には基本契約の締結をみたのでありまして、わば国が約7,200万ルーブルの設備機械をソ連邦に輸出してウランゲル港を建設するものであり、年間500万トン能力をもつ石炭積込設備およびバース、800万立方米が可能なチップ積込設備、14万個が可能なコンテナー積込設備等を約3億ルーブルをもつて建設するものでありまして、私はナホトカ港に上陸してまずこのウランゲル港の建設予定地を見学し、限りない力強さを感じたのであります。

「更にまた、唯今、ソ日両国の経済委員会の中にそれぞれ専門委員会

が設けられて、両国で検討中のプロジエクトは天然ガス開発、広葉樹・パルプ材チツプ開発、粘結炭・鉄鉱石開発、銅鉱山開発など数々のすぐれたプロジエクトの開発計画がございます。

これらの計画は、いずれも両国の利益に合致するものと信じているのでありまして、その結実が一日も早からんことを期待するものであります。」

さりながら、貴国と日本は国情や制度、取引上の商慣習の相違もあり、なお解決さるべき貿易上の幾多の問題点があることも事実であります。

「わが国が解決しなければならぬ問題は、貴国に対する延払条件の緩和の問題がありますし、またココム禁輸規定の緩和ならびに弾力的運用の問題等がございます。」

わが国が貴国に期待します事項は、バーター的商談方式の是正や恒常的対ソ入超の是正などがあり、また商品の検査、検量の方法や輸送、船積の問題などでございます。

これら諸問題は熱意をもつて当るならは必ず解決するものと信じます。今回の第4回日ソ知事会議もお互いの意見交換が諸問題解決の端緒となり、成果のあがることを期待してやみません。

最後にソ連邦政府や関係機関、団体の皆様、知事の皆様にご清聴を感謝いたします。

続いて、同議案について小畑秋田県知事より大要次のような提案報告があつた。

わが秋田県は、1967年に秋田湾地区が国の新産業都市として指定されてから急速に工業化が進んでおりますが、さらに昨年末、国土開発審議会において、日本海岸における最適の大規模工業基地として認められ、目下着々その実現に向つており、将来は、日本海沿岸では最もすぐれた国際的工業都市となることが期待されております。

従いまして、この秋田湾地区は原料並びに燃料源として多量の石油、

天然ガスの需要が見込まれ、1975年には天然ガス換算で25億立方米に達し、山形県、新潟県などの需要を加えると、その量は50億立方米にも達すると考えられ、さらに1985年には100億立方米以上の天然ガス需要が見込まれているのであります。この石油、天然ガスの確保策につきましては、ソ連邦の資源を導入することを大きく期待いたしておりますが、天然ガスはサハリン～北海道～秋田のパイプラインで、石油はナホトカ港より最短距離で秋田港に輸送の可能性がありますので、日ソ交渉が早期に妥結し、パイプライン敷設の実現されることを強く望んでおります。

**議題4　沿岸貿易の促進について**

日本側から提出された議題である。

石破鳥取県知事よる大要次のような報告提案があつた。

わが県は日本で一番小さい県であるが、最近における日ソ貿易の実績は、木材20数万立方米、重油を輸入し、繊維品の輸出を行つている。本県は農業から工業振興に進展しており、過去10年間に5倍の工業生産の伸びがあり今後更にソ連との貿易の伸長が期待される。

私は次の2点を提案したい。

（1）重油の輸入の他に軽油、ガソリンを輸入したい。

（2）極東物産展を米子市で開催してもらいたい。

続いて中川福井県知事より大要次のような報告提案があつた。

敦賀－ナホトカ航路を実現させたい。現在敦賀－小樽間を28時間でフェリーボートが就航している。昭和47年には敦賀－新潟－小樽、敦賀－長崎の就航が計画されている。このことは、日本経済の発展の中にあつて貨物輸送は陸上輸送でなく、海上輸送の時代が来たことを示している。敦賀－ナホトカは最適かつ経済的な航路と

考えるので、この航路の開設を実現したい。私は今回160名の青年を乗せて敦賀を出発、28時間でナホトカに上陸した。私は敦賀ーナホトカ間を28時間で行けるという論より証拠を見せたのである。

昨年第2回日本沿岸貿易見本市をハバロスクで盛大に開催したが、ソ連商品の極東物産展は1965年以来開催されていない。昨年第3回日ソ知事会議の席上、極東物産展を日本で開催されたい旨発言し、ソ連側の承諾を得、本年10月開催できるよう準備を終えている。10月が過ぎると日本海沿岸には冬がやつて来て、気候が悪くなるので是非、10月に開催できるようお願いしたい。

**議題5　公害対策について**

坂井兵庫県知事より大要次のような報告提案があつた。

わが国は今、公害問題に直面している。工業発展に附随する公害をどうにかして防止したいので、ソ連はどのような対策を行つているか伺いたい。

日本をとりまく工業開発は日本海まで汚さないとも限らないので、公害問題を真剣に考え、取組んで行きたい。ソ連は天然ガスが豊富であり、電力が豊富であるので、公害はないと思うがお互の協力によつて日本海を公害から護つて行きたい。

公害技術の開発をどのようにやつているか、また、重油を燃した際の脱硫技術の情報交換をしたいがいかがか。

**協　　議**

小畑秋田県知事より沿岸貿易の具体的改善について、大要次のような提案があつた

(1) 木材の輸入価格が公団貿易より10%高いということであるので、沿岸貿易の木材の価格改善をして、公団貿易と同じようにご配慮願い

たい。

（2）秋田県は塩化カリを輸入しているが、これの見返りとして高度化成肥料を輸出することを希望いたしたい。塩化カリを運んだ帰りの船を使うことにより経済的に実施できる。このことは全購連、肥料協会を通じてソ連関係機関と話し合つているが、結論を見ていないので是非促進されたい。

（3）秋田県は、青森、長野両県とともにリンゴを輸出しているが、品種は国光に限らず、富士、スターキング等の高級品種をも輸入されたい。また一般貿易の品目にも加えていただきたい。

（4）最後にソ連極東物産展の開催を県民が期待しているので10月開催を特にお願いしたい。

イルクーツク州クラフチェンコ・ソビエト議長の発言

イルクーツク市に立ち寄らないで、飛び越えて来た知事さんは、この次には必ずイルクーツク市にお立寄り願いたい。

沿岸貿易についてお話する機会を得たので、2、3希望を申し上げたい。木材20万立方米を東シベリア並びに極東の地方から輸出することになつており、ナホトカ港は木材で一杯である。これは日本側で受けとりきれないところに原因がある。日本知事団の皆さんのご配慮によつて船の回転率を早くするようお手配願いたい。

イルクーツクと金沢、ブラーツクと七尾が姉妹都市を締結しているが、これからは日ソの都市間において、またソ連の州・地方と日本の県との間においても姉妹関係を結ぶ段階に来ていると思う。私達は聖なるバイカル湖のある土地に住む者である、バイカルは数万年にわたつて、平和を護つてきており、われわれは末永く交友を続けたい。

中川福井県知事の発言

沿岸貿易に参加している地方自治体の企業は、中小企業者であるので、沿岸貿易は両国住民の相互理解と友好親善を深める上に極めて重

要であるが、ダリイントルグの取引方法の改善をすれば、貿易額を更にふやすことができる。

加藤岡山県知事の発言のごとく、シベリアの開発輸出についてプロジェクトを作つていただければ、更に貿易は伸びると思う。東シベリア極東の消費物資は、西欧からウラルを越えて持つて来るよりも、日本から輸入した方が経済的であると思われるのでダリイントルグを通じてこの話を今後とも進めてまいりたい。

杉村村岐阜県副知事の発言

本年5年にソ連材を輸入し、瀬戸物を輸出するための協同組合を設立した。今後は日ソ友好と貿易の促進のため鋭意努力するので格段のご協力を願いたい。

本県産陶磁器（美濃焼）の本県総輸出額に対する割合は36%である。陶磁器は数年前からソ連向けが増加し、年間3,000万ドルと推定されるが、その70%が本県から輸出されている。今秋モスクワにおいて美濃焼を中心とした展示会が開催されるので、ご協力ご高覧を願いたい。

ソ　連　側

ダリイントルグの支所を日本の西の方に置かせてもらいたい。

日　本　側

○政府の方針に関連することであるので外務省と相談したい。

以上で懇談を終り、千田団長より大要次のような挨拶があつた。

○この会議で共通の問題について隔意のない意見交換が行われたことは感謝に堪えない。

○会議では沿岸貿易のことが多く論議されたが、未解決のものもあり、今後これらについて解決していきたい。

○また公害問題、文化面の交流について意見の発表があつたが、極めて有意義と思います。

○また、ソ連側の申出の日ソ知事会議の継続については、相互に誠意をもつて善処することといたしたい。

○この会議を有意義に過し得たことに感謝いたします。

続いてソ連側を代表してボガエフ・ハバロスク州ソビエト議長は大要次のような挨拶を行つた。

○本日の県、州知事会談でいくつかの報告が行われ、沿岸貿易の発展地方間、国家間の交流の問題について意見が交された。双方はできるだけ早くこれらの提案について解決に努力いたしたい。

○この実りの多い会議に対して、千田団長が非常に高く評価されたことに感謝いたしたい。

最後に、議長のポポア女史より大要次のような閉会の挨拶があつて閉会した。

○私達はこの会議の意義があること、ソ日両国の経済文化の交流に貢献することを期待する。この会合が非常に友好裡に行われたことに満足している。

○日ソ間の善隣関係、地方・州と県、都市相互間の友好関係を更に確認いたしたい。日ソ友好、相互理解は極東における民族の安全を確認することと思つている。皆さんの日程はきつく、ソ連邦政府訪問や諸都市、その他の訪問等があるが、その間にソ連邦の生活を通じ、第24回党大会で決定した平和プログラムの実現に一層努力していることを理解していただきたい。

○両国が提案した意見には慎重を要する問題もあるが、このような問題については、それ相当の機関にかけて回答されることをお互に行うよう期待したい。

○この会議が終るにあたり、両国の友好が全世界の見本となることを考えている。

昭和46年7月21日夕方、ソ連側からの提案に対し、日本側が字句などに若干の修正を加えて合意し、7月26日新聞記者に説明、7月27日付で発表した。

日本全国知事会代表団訪ソにさいしての日ソ共同コミニュケ

1971年7月15日より27日まで、東シベリア及び極東の地方竝びに州ソビエト勤労者代議員執行委員会議長の招待により、千田正岩手県知事を団長とする全国知事会代表団がソビエトに滞在した。

代表団は、鳥取県石破二朗知事、秋田県小畑勇二郎知事、福井県中川平太夫知事、岡山県加藤武徳知事、兵庫県坂井時忠知事及び岐阜県杉村治津雄副知事から構成されていた。

日本代表団は、モスクワ、レニングラード、トビリシ、ハバロフスク、イルクーツク、ナホトカの諸都市を訪問した。

代表団は地方、州及び市ソビエトの議長と会見し懇談をもち、産業企業、ソホーズ、教育施設、児童及び医療機関を参観し、ソビエトの国民の生活とその経済的、文化的建設の成果をみる広範な可能性をもつた。いずれもの場所で代表団は、友好的な歓迎をうけた。

代表団はシチコフ・ソ連最高会議連邦会議議長、ゲラシモフ及びジヤコフ・ロシヤ共和国閣僚会議副議長、セミチャソノフ・ソ連外国貿易第一次官、ポポワ・全ソ対外友好文化交流協会連合会幹部会議長、ゴロフキン・全ソ商業会議所幹部会副会頭の諸氏とも会見し懇談した。

ソビエト側の会議参加者は、ビウオワロフ・ブリャート自治共和国閣僚会議議長、執行委員会議長の、ポドガエフ・ハバロフスク州、バラキン沿海州、ジミトリエフ・チタ地方、クラフチエンコ・イルクーツク地方、グレク・アムール地方、シエフツオフ・サハリン地方の諸氏であつた。

日本側からは上記の日本全国知事会代表団員及び井土良二全国知事会事務局次長であつた。新関欽哉駐ソ日本大使も会議に出席した。

会議では、東シベリヤ及び極東の地方並びに州と日本の諸県との間の文化及び経済関係、沿岸貿易の現況とその一層の発展についての諸問題が討議された。

双方は、ソ連邦の州及び地方執行委員会議長と日本全国知事会との間の接触、ソビエトの極東地方と日本の諸県との間の文化的協力及び沿岸貿易は、両国国民の利益であり、極東及び全世界の利益である日ソ両国の友好的関係の強化を促すものであることを満足して確認した。

# 第２部　　視　　察

## 1．全国知事会代表団のソビエト滞在日程

7月15日（木）

敦賀港（7月14日）より「ジエルジンスキー」号にて

加藤岡山県知事夫妻

中川福井県知事

杉村岐阜県副知事

17：00　ナホトカ港到着。

港湾および木材倉庫視察。

沿海州ソビエト主催の歓迎会。

20：20　チホアキアンスカヤ駅よりハバロフスク市へ出発（汽車）。

7月16日（金）

8：30　食堂車にて朝食。

11：05　ハバロフスク着。

州執行委員会訪問。

市街視察。

州博物館視察。

果実養樹園視察。

アムール川視察。

19：00　ハバロフスク州知事主催レセプシヨン。

7月17日（土）

14：25　　イルクーツク市へ向け出発（飛行機）

15：45　　イルクーツク空港着

イルクーツク地方執行委員会訪問

毛皮基地視察

淡水湖沼学研究所視察

バイカル湖視察

7月18日（日）

17：20　　団長千田岩手県知事、小畑秋田県知事夫妻、石破鳥取県知事夫妻、坂井兵庫県知事夫妻、井土全国知事会事務局次長　モスクワ市シエレメンチボ空港着　（日本時間18日12時50分東京羽田空港発）

（16：25　杉村岐阜県副知事モスクワ着）

20：10　　宿舎ソビエツカヤ・ホテル（迎賓館）にて歓迎会

7月19日（月）

10：00　　オスタンキノ・テレビ塔視察

11：00　　国民経済成果博覧会視察

14：00　　昼　　食

18：30　　養老院視察

（17：45　　別班加藤岡山県知事夫妻、中川福井県知事、モスクワ市ドモデドボ空港着）

7月20日（火）

10：00～　日ソ知事会議

14：00

14：20　昼食会（プラツハ・レストラン）

16：00　ソ連対外友好文化交流団体連合会を訪問

7月21日（水）

9：30　宇宙3飛行士およびレーニン廟表敬

10：30　ソ連最高会議連邦会議訪問

12：00　ロシア共和国閣僚会議訪問

14：00　在ソ新関日本大使主催昼食会

15：00　ソ連貿易省訪問

17：00　全ソ商業会議所訪問

19：00　極東および東シベリアの州、地方ソビエト議長レセプション

23：55　石破鳥取県知事夫妻、加藤岡山県知事夫妻、坂井兵庫県知事夫妻、杉村岐阜県副知事、汽車「赤い矢」号にてモスクワ発レーニングラードへ（レニングラード班）

## レニングラード班日程

7月22日（木）

8：20　レニングラード着

9：00　アストリア・ホテル着

レニングラード市ソビエト訪問

スモリヌイ革命本部視察

ペトロドワレツ宮視察

エルミタージユ美術館視察

ソ日協会訪問

レニングラード市ソビエト主催昼食会。

7月23日（金）

17：22　レニングラード空港発モスクワへ。

18：27　モスクワ「シエレメンチエボ」空港着。

19：00　夕食（空港）。

22：00　加藤岡山県知事夫妻、坂井兵庫県知事夫妻、杉村岐阜県副知事ワルシヤワに向け出発。

7月24日（土）

12：30　石破鳥取県知事夫妻ヘルシンキへ向けレニングラード空港を出発。

## コーカシ班日程

7月22日（木）

10：00　ソビエツカヤ・ホテル発ドモデドボ空港へ。

参加者

団長千田岩手県知事、小畑秋田県知事夫妻、中川福井県知事、井土全国知事会事務局次長

12：00　ドモデドボ空港発、グルジア共和国首都「トビリシ」へ。

14：15　トビリシ着。

15：00　昼　　食。

16：00　トビリシ市ソビエト訪問。

17：00　グルジア共和国閣僚会議訪問。

18：00　　グルジア共和国対外文化交流協会を訪問。

　　グルジア共和国紹介映画の観賞。

20：00　　夕食会。

7月23日（金）

9：00　　イベリア・ホテル出発。

10：30　　古都視察

12：00　　グルジア農業大学視察。

16：00　　スターリンの生地およびスターリン博物館視察。

18：00　　セテイ市コルホーズ視察。

7月24日（土）

　　〔中川福井県知事モスクワ→東京に向け帰国。

9：20　　グルジア博物館訪問。

10：00　　国民経済達成博覧会視察。

12：30　　トビリシ人造湖視察。

14：00　　児童青少年技術者会館視察。

16：30　　お茶の家訪問。

18：00　　アマシユケリ女神の彫刻が立つている丘視察。

19：00　　グルジア共和国閣僚会議主催の晩餐会。

7月25日（日）

9：43　トビリシ空港発。

11：03　モスクワ　ドモデドボ空港着。

12：00　　ソビエツカヤ・ホテル着。

18：30　　同ホテル夕食。

7月26日（月）

11：00　　ソ連対外友好会館において記者会見。共同声明発表。

18：55　　小畑秋田県知事シエレメンチボ空港発東京へ。

20：00　　ボリシヨイ劇場へ。

7月27日（火）

9：00　　団長千田岩手県知事シユレメンチエボ空港よりオスロへ出発。

10：28　　知事の別送荷物を東京に発送後、シユレメンチボ空港よりレニングラードへ向け出発。

## 2．ソ連要人との会見および視察

7月19日（月）

10時オスタンキノ・テレビ埒視察。

当日は休館日であつたが、日本知事団のために関係者は出勤した由。

説明によると、高さ世界一（533m)、エレベーターで5階へ昇りモスクワ市を烏かんした。（撮影禁止）契茶室もわれわれのために特別に開かれた。入場料菓子、紅茶一人前3ルーブル＝1,200円は少し高い。

11時国民経済成果博覧会を見学。

1917年～1940年においてはソ連の全工場数は940に過ぎなかつた。第2次世界大戦により32,00工場が破壊されたが、1970年には7,400工場となつた。今後の見通しとしては、1971～1975年の新5箇年計画

により

総生産額の増　40～46％増

日常生活品の増 47％

国営農場（コルホーズ）の数、現在 14700、モスクワに比較的近いプシユキン国営農場の例に見ると（1920 設立）

牛の飼育、小麦の栽培が主であるが、面積 5000 ヘクタール、労働者 800 人である。

この博覧会場には産業別、民族別（民族は大、小合せると 100 以上）などの展示館が 300 施設あり従業員は 6,000 人の由。

原子力平和利用館

塩水の淡水化施設、44,000 馬力の北氷洋廻り砕氷船の模型は印象的であつた。

宇宙開発関係の展示館は見物人が満員であり、宇宙開発の成功はソ連の誇りであることを示していた。見物人の服装にはみすぼらしいものは認められなかつた。

14 時　昼食（モスクワ・レストラン）　におけるシエフツオフ・サハリン地方ソビエト議長の話

サハリンでは住民 1 人当りの所得

月 222 ルーブル＝8.8 万円

住宅費（ガス、水道を含む）20 ルーブル＝8 千円

生活費（食費）1 人平均 50～80 ルーブル＝2 万～3.2 万円

衣類は高い

貯金利子　3％

ソ連共産党の数　1,400 万人

ソ連総人口2億14百万人の20分の1である。

ソビエト議長の任期

連邦、およびロシア共和国　4年

その他の地方　　2年

地下鉄　全線均一　5カペイク＝20円

延長140Km当り100カペイク＝40円

（1ルーブル＝100カペイク＝400円）

18時30分、モスクワ市19番16パーク通りにある養老院視察

医者、看護婦は充分配置されている。立派な図書館があり、健康なものは立派な施設によりミシン刺しゆう等の内職をすることができる。

7月21日（水）

10時30分、ソ連最高会議連邦会議訪問シチコフ議長の挨拶要旨

私は千田知事を団長とする日本知事団がソ連を訪問されたことを心から歓迎します。第4回日ソ知事会議において貿易全般、特に沿岸貿易、見本市の問題が採り上げられているが、私はこれを高く評価している。貿易面におけるこのような話合いは、日ソの相互理解を深め、貿易を拡大させると思つている。

沿岸貿易は1968年78,000万ルーブルであつたものが1970年には82,000万ルーブルとなつた。このように拡大しているが、これをもつて満足しているのではない。日ソ両国とも努力する必要がある。沿岸貿易の拡大については、日本の全国知事会が大きな役割を果していると思う。

最近日ソ関係は、特に貿易において交流が盛となり、日ソ政治家の交流も亦盛んとなつた。ソ連からは日本政府の招待によりミコヤンソ連副首相、バ

イバコフ副首相、ロビコク副首相、グロムイコ外相、その他パトリチエフ　シモセーエフ　イシコフ等の閣僚が訪日した。また、日本からは川島、椎名、三木、中曾根等の秀れた政治家が訪ソした。

また、文化人の交流が盛んとなり、1970年には1,000人以上の人々が交流し、日本では万博が開催され、日本のテレビ、映画館にソ連映画が200本以上上映された。1971年にはボリショイ劇団レニングラードシンフオニー交響楽団が訪日することになつている。

日ソの科学技術の閣僚については現在のところ交流が足りない。理由の一つは、日本政府が契約を結びたがらないためである。

航空関係については、1966年両国間に航空協定が結ばれ、モスクワー東京を共同運航したが、更に単独運航するとともに、新潟ーハバロフスク路線を開設することになつた。労働組合、青年、婦人団体における交流もまた活発となつた。

地方団体間の交流も盛んとなつた。レニングラード大阪、ナホトカー新潟、イルクーツクー金沢の姉妹提携が行われた。

プレジネフ書記長は、両国民の相互利益の可能性が、いわゆる日本の少数の領土返還要求で邪魔になつているといつている。

第4回日ソ知事会議は、ソ連極東と日本の県とを結ぶきずなとなり、貿易も拡大されると思います。日本知事団は2班に分かれてグルジア共和国とレニングラードを視察されることになつておりますが、その成果を期待します。

11時　ロシア共和国閣僚会議訪問

ゲラシモフ第一副首相、ジアコフ副首相に面談

ジアコフ副首相挨拶

この席は、ロシア共和国閣僚会議が開かれる部屋である。私はソ連側の知事

から意見を聞いたが、日ソ知事会議は、相互理解、文化交流の上で意義深いものがあると考えている。従つて、ソ連政府は、このような会議を出来るだけ開催することを考えているし、また会議の組織をよくすることを考えている。

昨日の会議では貿易上の色々な問題が採り上げられたが、一部の問題を除き、大部分が解決されると思う。1971 年－75 年の 5 年間の貿易は大いにふえると思う。今回の会議の結果、貿易を拡大する提案を出すことになると思う。

協同組合の貿易は、拡大の可能性がある。私達は協同組合に対し、短期間に実施できるよう命令を出す。

私達は日ソ親善関係の拡大の方向に満足している。日本で開催された万博においてこの傾向は更に強まつた。私達は婦人団体、青年団体間の交流を更に促進したいと考えている。昨年ソ連で日ソ市長会議が行われた。本年 10 月日本で日ソ市長会議を開催することを約束している。

私達は現在の日ソ知事の会議を意義深く考えている。第 4 回日ソ知事会議において日本側より色々な具体的な希望、提案がなされた。私達は皆さんの希望、提案をソ連の色々の機関にかけて研究し、解決できると思つている。

皆さんのソ連滞在の印象を聞きたい。もう一度、ロシア共和国閣僚会議の名において、皆さんに歓迎の言葉を贈ります。

千田団長の挨拶

ロシア共和国閣僚会議の議長さん達に対し、心からお礼の言葉を申し上げます。

昨日開かれた日ソ知事会議が成功したのは、ソ連側のご協力の賜であると思います。日ソ間には日本海が隔つておりますが、1960 年ハバロフスク

において見本市が開かれてから4回、力強い協力により着々と成果を挙げてまいりました。国家間の親善は民度、生活等を相互に理解することによつて成り立つと思います。日本海に面している秋田、福井、鳥取の知事と岡山、兵庫、岐阜の知事が出席しておりますので、後ほど希望を申し上げ、懇談を重ねまして親交が深まりますことを心から希望し、ご挨拶といたします。

加藤岡山県知事の発言

2週間前モスクワにおいて石油の国際会議が開催された。ソ連側からイルクーツクーナホトカの間のパイプ・ラインを敷設する必要があるとの発言があつた。日本側はこれに関心をもち、この実現の早からんことを期待している。その延長は4,000Kmで大変であると思われるがるソ連側では計画を進めているか、伺いたい。

ジヤコフ副首相の発言

1971～75年の新5箇年計画の実施案を作つている最中であるが、これに入ると思う。勿論パイク・ラインの敷設には金がかゝるが、国家予備に計上されると思う。しかし、このパイプ・ライン完成には時間がかゝる。恐らく5年では完成できない。この問題で日本とタイ・アツプするならば、日ソ間の経済上の最大の協力となるだろう。

小畑秋田県知事の発言

天然ガスの問題でお聞きしたい。ヤクーツク、オハの天然ガスに対し、北海道、青森、秋田、山形は大いに期待している。これらの道県で年間100億リツターの消化が可能である。本年7月に日ソ間に接触が持よれる予定が、9月か年末になると云われている。どうして遅れているか、実現の可能性について聞きたい。

ジヤコフ副首相

ヤクーツクに果して適量のガスがあるかどうかを調査している最中である。そこに適量がないとすれば、更に遠いところからガスパイプを引かなければならない。そこで今検討中である。

小畑秋田県知事

調査は年内に完了するか、ヤクーツクの調査は本年一杯かゝるか。

ゲラシモフ第1副首相の発言。

調査は本年中に終ると思うが、確言するわけにはゆかない。ヤクーツクの前の地点より180Km離れたところで有望なガス田を発見した。調査に時間がかゝるかも知れない。サハリンのガス田は量が少ない。調査が失敗すると、契約しても実行することができなくなる。そこで契約を履行できるよう時間をかけて調査している。

中川福井県知事の発言

日ソ貿易がいよいよ盛になると思われるので、ナホトカーツルガに定期航路を開設して欲しい。横浜－新潟ラインは東日本中心であるが、敦賀は名古屋大阪西日本を中心とした港となると思う。中部横断運河の構想もある。敦賀は鉄鉱石10万トン船、油輸送船20万トン船を発着させることができる。1971～75年の新5箇年計画にナホトカー敦賀定期航路の開設を入れて欲しい。

ジヤコフ副首相

この問題は始めて出したのですか。技術的な点がはつきりしない。始めてのものであれば、政府を通して正式に提案されたい。

中川福井県知事の発言

訪ソして“世界の平和のため”とか“よき隣人となる”という言葉を何回も聞いた。私はこの機会にすべてのことを率直に申し上げておきたい。

先ほどシチコフ議長にお会いしたとき、シチコフ議長はブレジネフ報告を引用して、日本人の一部の主張する領土問題が、日ソ友好の妨げとなつていると云われた。シチコフさんに申し上げるべきでしたが、時間がなかつたので、この際申し上げる。

日本人の一部というと、日本では日本人の少数という意味になるが、日本人の一部ではなくて、大多数の願である。領土問題についてはこのようにご認識願いたい。

シチコフ第1副首相の発言

私はこの問題について次のように云いたい。

両国民の間にはいろいろの話題がある。その1つは実務的なことである。このことについては最近日ソ間に色々な会議が行われ、いろいろな問題が採り上げられて解決されている。今回の第4回日ソ知事会議もこのような会議で日ソ間の親善を深める会議となつている。

領土問題については、ブレジネフ報告ではつきりしている。中川さんが知つているように平和条約が締結されない理由は何か。日ソ間において平和条約を結ぶとき、領土問題はもう一度採り上げることになつている。この問題を本日このようなところで解決することは時間的にも出来ないと思う。この問題はサンフウンシスコ平和条約においてはつきりしているが、今後の日ソ関係を深めるためには政府間の問題となつている。この会場で解決できるとは思わない政府間の問題である。

ソ連政府の外交政策は、平和・友好、文化交流、平和の運動を進める態度である。この態度はブレジネフ報告ではつきりしている。経済関係を通じて友好を深める努力が必要である。

15時30分　ソ連貿易省訪問

セミチヤソノフ第1次官と会談

第一次官の発言

1971～75年までの日ソ貿易新協定はパトリチエフ貿易相が訪日し、調印することになつている。

日ソ貿易が始まつた当時は、日本において貿易を行いたいという希望は少なかつた。大会社が姉妹会社を通じて行つていたが、最近は経済協力も行われ、貿易も亦盛となつた。経済協力委員会において木材協定、ウランゲル港の建設などについて合意し、調印が行われた。現在チツプ問題について交渉が行われている。交渉は少し永びいたが、必ず成功する。今春第2回経済会議を行う予定であつたが、日本から重大な複雑な問題を出しているので延期となつている。例えば経団連からの石油輸送問題、南ヤクーツクの天然ガス、粘結炭、ニツケル（ブルクタール）の開発、一このような問題については、日本と交渉する前に、果して資源が充分あるかソ連としては充分に検討する必要がある。これらの準備ができるまで延ばすこととした。

沿岸貿易は2,000万ドルに達している。

このうち一番多いのは木材。極東では魚類の輸出余力があるが、今のところ木材が中心である。ダリイントルグを通じての貿易であるが、更に拡大されると思う。貿易団体の代表は日本政府からオーソライズされたものではない。日本の外務省は不親切である。

千田岩手県知事

日ソ貿易は順調に進みつゝあるが、特に同僚知事より日本の中小企業者の意見を伝えたい旨発言し、日本側知事を紹介した。

中川福井県知事の発言

沿岸貿易の対象者は中小企業者である。中小企業者は貿易協同組合をつくり、

その代表者に頼つている。中小企業者の生産品は日常品、雑貨が主体である。中小企業者はソ連との沿岸貿易で取扱われる対象品目が、実際にどのようなものであるが分つていない。どのような品目で、具体的にどのような状態になつているか、実物を見るために日本でソ連の商品見本市を開きたい。ソ連見本市は5、6年前に新潟、富山、舞鶴で開かれたが、その当時の貿易額は500万ドル前後であつた。現在は2000万ドルにも達せんとしており、新しい輸入品目を見出すためにも、日本でソ連見本市を開催するよう秋田、鳥取、福井が提唱している。これに対し、ソ連側は10月に開いてやろうということで、敦賀も福井県も予算を計上し、会場を作つて待つている。このことは秋田、鳥取でも同様であると思う。10月を過ぎると、日本海の天候が悪くなるので、是非10月に開いてもらいたい。

セミチヤストノフの発言

希望としては理解できます。両方の相手が打合せなければならない。ダリイントルグの支所をもつとふやせばそれはできる。展示会を恒久的に開くこともできる。

小畑秋田県知事

ダリントルグの問題については政府と相談したい。見本市を開くのは善隣友好の意味がある。ダリイントルグを置くこととは別問題である。

セミチヤストノフ

あなたの云うことはよく分る。ダリイントルグを置けばやり易いということだ。昨年日綿実業が、本年は東レが、モスクワで見本市を開いている。

小畑秋田県知事

ソ連全体としては自給自足できる物であつても、極東、東シベリアに対しては日本から持つていつた方が安くつく物がある。肥料について云えば、秋田は

ソ連から塩化カリを輸入している。日本から窒素肥料を買つてもらえば、帰途が空船となることがない。とにかく、日ソ貿易を盛にしたい。品目についても自給自足の点でも、弾力的に考えて欲しい。

セミチヤストノフ

あなたの云うことはよく分る。

千田団長

ダリイントルグ問題を採り上げる前に、見本市を開いてもらいたい。ダリイントルグ問題については努力したい。

加藤岡山県知事

岡山、兵庫、岐阜には大きな工場がある。プロジエクト貿易に関心を持つている。プロジエクト貿易について、われわれは日本政府に要望するか、ソ連において特にご協力願いたい。

セミチヤストノフ

日本政府が新しい品目を作ることを嫌つている。5年間釘付けでなく、状況により改めることができる。

小畑秋田県知事

リンゴは弾力的に考えて欲しい。沿岸貿易品目だけでなく、一般貿易品目として欲しい。

中川福井県知事

ソ連に日本から米を輸出できないか。

セミチヤストノフ

米はソ連から輸出できるほど沢山ある。ハバロフスクにはチツプの工場がないので、日本からのプラント輸入を待つているが、日本が応じない。

7月22日（木）

16時トビリン市訪問

チヨゴシユビワ第一副市長と会見

副市長の談話

トビリン市は本年1月現在人口915,000人、現在は93～94万人となつている。面積26,000ヘクタール　市をクラ河が流れ、この河は源をトルコに発し、アゼルパイジヤンのバクーに注ぎ、長さ1,500Kmである。

都市人口の人種比率は

グルジア人　　60%

アルメニア人　12

ジョージア人　12

ウクライナ人　12

その他　　4

企業500以上（公害企業なし）総生産額15億ルーブル。

労働者数15万人、主要工業は、機械製作（60ケ国に輸出している）電気機関車、飛行機、木材加工、食料品、飲料（シヤンペン、コニヤク、ワイン）である。

教育、中学校生徒17万人。大学11学生数は7万人。

文化施設については

映画館75、劇場9、サーカス1、フイルハーモニー1

体育館は1万人を収容できるもの1、公園6、医療施設としては病院55、診療所66で従業員数は55,000人である。

科学アカデミーは1941年創立された。

市役所職員12万人。（裁判所、警察を含む）市の組織としては執行委員

会（16名、委員長＝市長　第一副委員長＝副市長）18局、市代議員600人、外に委員会17がある。年間予算は12,800万ルーブル。

市の総予算に当する教育費の比率　27%　社会保険費　23%

17時　グルジア共和国キクナゼ副首相兼外務庁長官を訪問。

キクナゼ副首相の発言

グルジア共和国政府とソ連邦政府外務省（外務庁はソ連邦出先機関）の名において日本知事団に歓迎の挨拶を贈ります。

かつて、グルジアはギリシヤ、ローマ、サラセン等の文化の影響を受けて、非席に高い文化を持つていた。しかし、19世紀にロシア帝国に統合されてからは、文化水準が著しく低下し、ソ連邦が創立された当時は、全人口80%までが文盲であつた。大学は1つもなかつた。

最近グルジア共和国創立50周年を祝つたが、教育の発達は著しいものがある。

大学数　18

研究所　160　19,000人の科学者が従事している。

大学就学率は1,000人当り38人で世界最高である。

| 大学就学率 | | | |
|---|---|---|---|
| 米　国 | 1964年 | 1,000人当り | 26人 |
| | 1968年 | 〃 | 35人 |
| 日　本 | 1968年 | 〃 | 19人 |
| | 1969年 | 〃 | 16人 |

幼児教育6～7才　6才より学校教育の準備コースに入る。

7～17才　普通中等義務教育。普通教育はロシア語でなく、グルジア語で行つている。

生活水準はロシア共和国の 1.5 倍である。

12 時　グルジア農業大学訪問

サリシユビリ学長の説明

この大学は国営農業を推進するために特に作られたものであり、19 学科を持ち、理論と実際を教育している。

高い水準の農業技者を養成し、農村に送り出している。この大学の卒業者の居らない村は 1 つもない。卒業してから 10 年～15 年経つと大学にもどして再教育している。実験農場は 1,000 ヘクタール、体育施設、特に標本施設は誇りに思つている。

グルジア共和国は、植物の種類が多く、特に果樹に恵まれている。ブドウ桃、梨、リンゴ、梅、スモモ、密柑、柿など、また極東の特産の竹もある。

本日（7 月 23 日）モスクワよりソ連邦農業相がトリビンに出ることになつているか、これは、グルジアがソ連邦のうちで生産達成率が最も高いため、表彰式に出席するためである。

18 時　セテイ市コルホーズ（国営農場）視察。

所長の説明

このコルホーズは 1967 年の創立。面積 716 ヘクタール。600 人が働いている。総収穫量は毎年 4,000 トン、重要な産物はブドウ。別に農業機械実験の農場がある。全体の予算額は 100 万ルーブル。

平均賃金月 150 ルーブル＝60,000 円。

高給者　300～500 ルーブル＝12～20 万円。

計画を達成すると年 1 回ボーナスがもらえる。

1,200～1,500 ルーブル＝48～60 万円。

このコルホーズはソ連中最も優秀なものである。政府の援助と農民の努力

でこのコールホーズは優秀な成績を収めているが、コルホーズにはうまく経営されていないものもある。